

平成16年10月1日

水産庁漁場資源課
独立行政法人水産総合研究センター
東北区水産研究所

平成16年度東北海区サバ長期漁況予報

- 別表の水産関係機関が検討し、独立行政法人水産総合研究センター東北区水産研究所が
とりまとめた結果 -

今後の見通し(2004(平成16)年10月～12月)

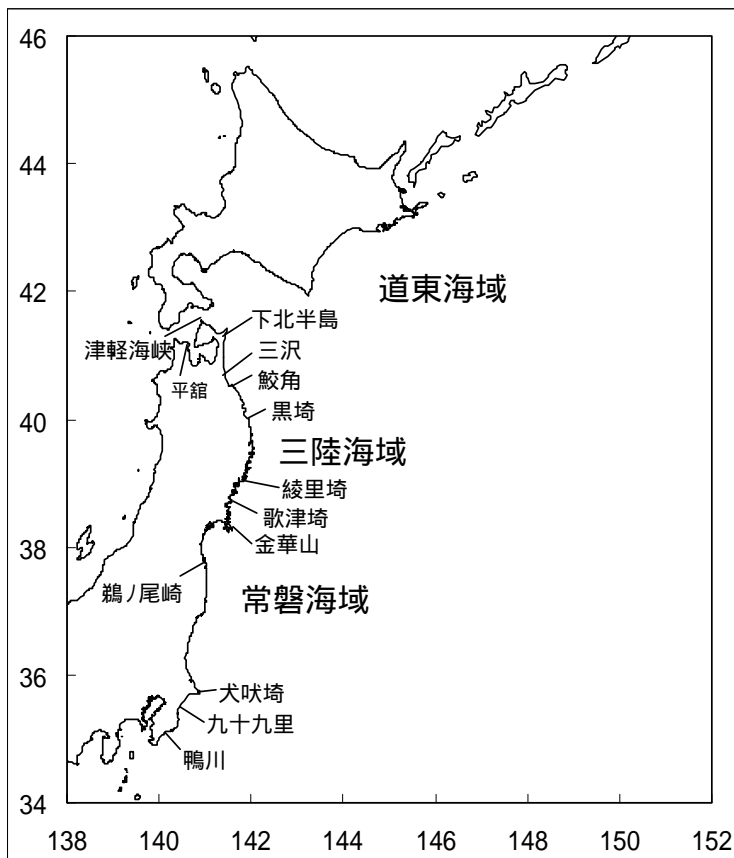
来遊量予測

0歳魚(2004年級群)は前年を大きく上回る。全体では前年並みかやや下回る。

1. 本予報は水産庁のホームページ(<http://www.jfa.maff.go.jp/>)、水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査等推進対策委託事業のホームページ(<http://abchan.job.affrc.go.jp/>)に掲載されます。
2. 本予報の内容等に関する問い合わせ先は、以下のとおりです。
水産庁増殖推進部漁場資源課沿岸資源班 担当:青木,笠原
住所:〒100-8907 東京都千代田区霞が関1-2-1
電話:03-3502-8111(内線7376) 03-3501-5098(直通)
ファックス:03-3592-0759
電子メール:mitsuhito_kasahara@nm.maff.go.jp
水産総合研究センター東北区水産研究所企画連絡室
住所:〒985-0001 塩釜市新浜町3-27-5
電話:022-365-7196 ファックス:022-367-1250
電子メール:kiren@myg.affrc.go.jp

参画機関

北海道立釧路水産試験場 北海道立函館水産試験場 青森県水産総合研究センター 岩手県水産技術センター 宮城県水産研究開発センター 福島県水産試験場 茨城県水産試験場 千葉県水産研究センター (社)漁業情報サービスセンター	水産庁漁場資源課 沿岸沖合課 独立行政法人水産総合研究センター 北海道区水産研究所 中央水産研究所 東北区水産研究所
---	---



参考. 東北海区の地形図

東北海区サバ漁況予報

今後の見通し(2004(平成16)年10月～12月)

対象海域:三陸～常磐～犬吠海域

対象漁業:まき網

対象魚群:マサバ,ゴマサバ 0歳魚(2004(平成16)年級群),1歳魚(2003(平成15)年級群),2歳魚(2002(平成14)年級群),3歳魚(2001(平成13)年級群)以上。魚体の大きさは尾叉長で表示。

(1)来遊量

マサバ,ゴマサバとも,0歳魚は前年を大きく上回る。1歳魚は前年を大きく下回る。2歳魚は前年を上回る。3歳魚以上は少ない。全体では,前年並みかやや下回る。

(2)漁期・漁場

まとまった漁場形成はなく,0歳魚の沖合からの来遊,および沿岸域に滞泳するマサバ2歳魚の集団によって,三陸南部,常磐～犬吠海域で,断続的かつ小規模な漁場が形成される。

(3)魚体

25cm以下のマサバ,ゴマサバ0歳魚と,35cm前後のマサバ2歳魚が漁獲される。漁期が進むにつれて0歳魚が主体になる。29cm前後の1歳魚は少ない。

漁況の経過(2004(平成16)年7月～9月)および見通しについての説明

1. 漁況の経過

(1)まき網漁業

7月は,九十九里沖～鴨川沖で中羽マイワシに混獲される程度であり,その北側の漁場ではさば類主体の漁獲が散発的にみられた。漁獲物は,マサバ,ゴマサバが混じり,18～40 cmの範囲で21～22 cm,および33～34 cmにモードが見られた。

8月は,三陸北部の三沢沖～三陸南部で漁場が形成され,低調な漁況ながらマサバ主体の漁獲が継続した。漁獲物は,33～36 cmにモードのあるマサバ2歳魚主体に21～22 cmモードのマサバ,ゴマサバの0歳魚が混じった。また,犬吠埼沖～九十九里沖では21～22 cmモードの0歳魚が漁獲された。

9月は,上旬は三陸南部で漁場が継続し,金華山周辺でも漁場が形成された。20日には常磐北部にも漁場が形成され,金華山周辺とともにマサバ主体の漁場が継続している。漁獲物は,35 cm前後のマサバ,および22～24 cmモードのマサバ,ゴマサバであった。

東北海域における7～9月の漁獲量は,2.0万トン(暫定値)であり,前年同期実績(7～9月:1.7万トン)を上回った。

(2)その他の漁業

岩手県,宮城県の定置網にはさば類の入網が見られ,7月～9月中旬の漁獲量はそれぞれ11.0千トン,8.2千トンであり,両県とも前年同期実績(7～9月:3.2千トン,3.9千トン)を大きく上回った。漁獲物は,おおむね17～42 cmの範囲で22～25 cm,34～35 cmにモードがみられ,それぞれ0歳魚,推定2歳魚が主体であった。後者の35 cm前後はマサバが主体であった。

道東海域周辺のサンマ流し網漁業,および棒受網漁業では,さば類の混獲が目立った。前者ではサンマと同程度の量が混獲された。後者では,操業海域によって混獲の程度は異なるが,混獲漁場が広い範囲に及び,混獲量も多いと考えられた。なお,近年では最も豊度の高かった1996年級群では,0歳時にサンマ漁業への大量の混獲が見られた。

2. 調査船調査結果

(1) 北海道立釧路水産試験場(北辰丸)が、道東～三陸沖において1994年以降毎年8～9月に行っている流し網漁獲調査の結果、本年はさば類0歳魚の漁獲が多く、CPUE(試験1回当たり漁獲尾数)はさば類で91.6尾/回であり、1994年以降では1996年(マサバ:20.0尾/回,ゴマサバ:208.1尾/回),2002年(マサバ:15.5尾/回,ゴマサバ:99.4尾/回)について高かった。本調査結果は各年の加入豊度の指標となることが知られており、本年の結果からは2004年級群の加入豊度は比較的高いと判断される。

(2) 東北水研(用船北鳳丸;北海道実習船管理局所属)が道東～三陸～常磐沖において8月27日～9月19日に行った中層トロール漁獲調査の結果、さば類は沿岸から東経148度までの本邦近海に広く分布しており、55回の試験でマサバ774尾,ゴマサバ718尾が漁獲された。漁獲物のほとんどは21 cmモードの0歳魚であり、26 cm以上の1歳魚以上の漁獲はわずかであった。そのため、10月以降沿岸の漁場域へ北方や沖合から来遊する魚群は、0歳魚主体であると考えられる。

本調査は、1987～2002年の8～10月に主に東経148度以西の北海道～東北海域において流し網漁獲調査として継続して行われてきた。2001年以降は調査効率の向上を目的として中層トロール漁獲試験により実施している。

これまでの調査結果から、0歳魚は、加入豊度の高い年には広範囲に高い密度で分布するために調査海域の広い範囲で漁獲され、その出現率(漁獲のあった調査点/全調査点)が高くなる傾向が知られている。本年の中層トロール調査における0歳魚(2004年級群)の出現率は、調査海域全体でさば類:56.4%,マサバ:40.0%,東経148度以西の本邦近海ではさば類69.2%,マサバ:56.4%と比較的高く、同調査での2003年級群(東経148度以西でさば類:29.0%,マサバ:26.7%)と2001年級群(同28.1%,12.5%)を大きく上回り、2002年級群(同60.0%,56.7%)と同程度であった。また、本邦近海の漁獲のあった点におけるCPUE(漁獲尾数/網)の平均値は、2004年級群はさば類:54.5尾/網,マサバ:34.8尾/網であり、2003年級群(さば類:40.2尾/網,マサバ:40.9尾/網),2002年級群(同76.6尾/網,49.7尾/網)と比較して同等かやや少なかった。これらのことから、2004年級群の加入豊度は、近年の資源低水準期にあっては比較的高く、2002年級群程度と判断される。

本調査におけるさば類0歳魚,1歳魚以上それぞれの出現率および平均漁獲尾数と本予測海域における南下期のさば類まき網漁獲尾数との間には有意な関係がある。また、2001,2002年の流し網と中層トロールの比較試験の結果から、漁法間の漁獲尾数の関係が得られている。これらの関係を基にして本年の9～12月のさば類まき網漁獲尾数を推定したところ0.5億尾と前年を下回る結果が得られた。

3. 今後の見通しの説明

(1)来遊量

マサバ,ゴマサバ3歳魚(2001年級群)以上は、0歳魚時から漁獲され続けて残存資源量は少ない。

マサバ2歳魚(2002年級群)は、近年では比較的高い加入豊度が高く、8月以降、まき網や定置網漁業の主漁獲対象となっているが、残存資源量は多くない。また、漁期が進むとともに産卵親魚として本予測海域から産卵海域へと南下していく傾向にある。ゴマサバ2歳魚も残存資源量は少ない。

マサバ1歳魚(2003年級群)は、これまでの漁獲状況や調査船調査結果から、加入豊度の低い年級群とされている。マサバ,ゴマサバとも1歳魚は、調査船調査の結果、漁場外の沖合での分布はほとんどみられず、来遊量は少ない。

マサバ0歳魚(2004年級群)は、上記の調査船調査結果やサンマ漁業への混獲状況、また、すでに沿岸のまき網漁場にも分布していることから、加入豊度は近年の低水準にあっては比較的高く、来遊量は前年を大きく上回る。ゴマサバ0歳魚も、マサバと同様に分布が見られており、加入豊度は比較的高いと判断される。

(2)漁期・漁場

0歳魚は親潮第1分枝に沿って道東,三陸から常磐海域まで連続して分布しており、また、すでに犬吠海域でも漁獲されているように一部の魚群は常磐以南まで南下しており、10月から三陸南部以南海域で漁獲される。東方沖合から来遊する魚群は少ない。1歳魚以上は沖合での分布がほとんどみられないことから、沿岸域に滞遊するマサバ2歳魚主体の魚群の集群によって漁場が形成されるが多くはない。0歳魚が大規模な漁場形成をすることはなく、断続的で小規模な漁場形成となる。

(3)魚体

年齢と魚体サイズは、商業漁獲物や調査船漁獲物の体長測定結果と鱗紋による年齢査定結果による。8月以降漁獲されている33～35 cm前後のマサバ2歳魚は、本予測海域から産卵海域へと南下していく傾向にある。漁期が進むにつれて0歳魚の来遊量が増加し、魚体組成は、25cm以下の小型のマサバとゴマサバが主体になる。

(資料)

表1. まき網による県別さば類(マサバ,ゴマサバ)水揚げ量(t)・カッコ内は定置網などその他による漁獲。

2004年	千葉	茨城	福島	宮城	岩手	青森	計
7月	1,640	0	0 (6)	0 (953)	0 (1,228)	717 (0.3)	2,357 (2,188)
8月	939	1,363	0 (12)	991 (3,912)	0 (5,657)	2,197 (0.0)	5,490 (9,581)
9月	2,241	63	0 (0)	6,111 (3,761)	0 (4,068)	3,578 (0.5)	11,992 (7,829)
計	4,819	1,426	0 (18)	7,102 (8,626)	0 (10,953)	6,492 (0.7)	19,840 (19,597)

各県資料・JAFIC速報値 9月は暫定値 (むつ湾平箱定置)

表2. さば類(マサバ,ゴマサバ)の東北海道におけるまき網による漁獲量(トン)

月\年	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004
1	0	2,447	38,086	1,619	6,306	9,076	42,283	521	2,983	821	10,882	7	593
2	8	594	172	0	3,520	24,264	3,700	1,839	1,383	15,084	4,959	766	0
3	0	379	642	363	229	31,338	64	3,240	1,738	18,629	0	127	4,762
4	0	8,070	2,200	0	15,396	25,071	13,096	5,244	20,049	7,765	0	7,809	1,125
5	0	4,676	8,830	838	13,685	42,161	23,166	5,532	5,786	20,083	0	3,649	1,247
6	0	20,010	2,211	1,749	11,164	28,933	14,905	2,548	1,765	2,098	23	2,136	2,008
7	0	3,901	15	2,083	8,233	3,881	8,769	155	4,356	3,397	271	6,291	2,558
8	728	18,197	5,218	16,007	2,253	10,362	19,008	8,441	2,732	10,780	745	1,915	5,766
9	1,815	66,901	28,869	10,923	7,349	23,162	13,969	8,261	8,443	12,823	1,241	8,780	(11,992)
10	863	79,575	12,791	10,495	23,979	45,916	19,312	8,859	15,385	13,404	3,399	21,007	
11	7,213	49,657	8,391	4,386	8,000	75,828	18,866	6,936	10,331	18,495	5,840	1,126	
12	3,665	73,559	12,753	17,729	4,979	37,763	8,585	8,849	4,749	17,084	21,773	12,020	
7-9月計	2,543	88,999	34,102	29,013	17,835	37,405	41,746	16,857	15,531	27,000	2,257	16,986	20,316
年計	14,292	327,966	120,178	66,192	105,093	357,755	185,723	60,425	79,700	140,463	49,133	65,633	30,051

北部太平洋海区まき網漁業組合集計値(一部修正)、および各県水試資料・JAFIC速報値 9月は暫定値

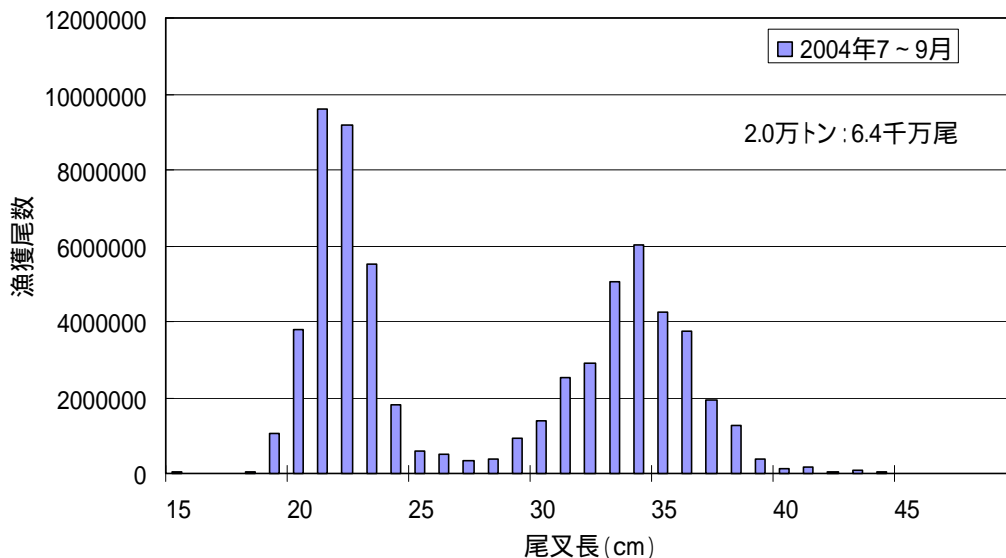


図1. 東北海道のまき網で漁獲されたさば類(マサバ,ゴマサバ)の体長組成

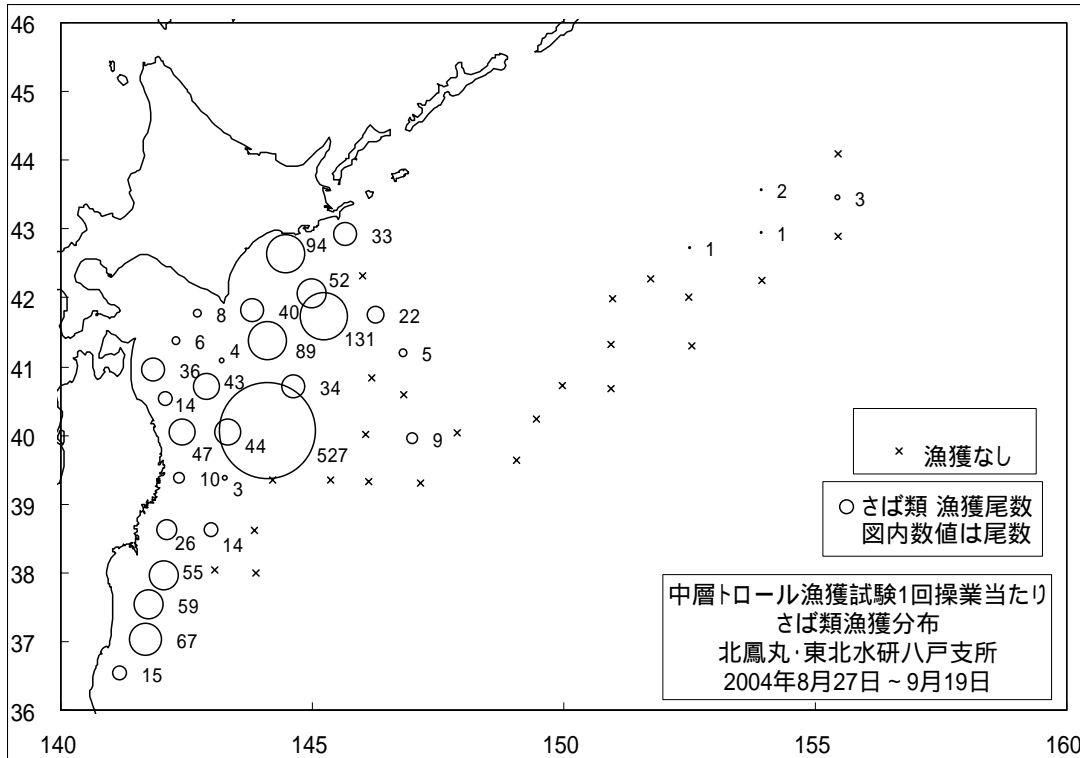


図2. 東北水研(北鳳丸)の中層トロール漁獲調査におけるさば類(マサバ, ゴマサバ)の漁獲分布。使用したトロール網は網口の大きさ約30×30 mであり, 夜間に表層を約5 ktで30分間曳網した。

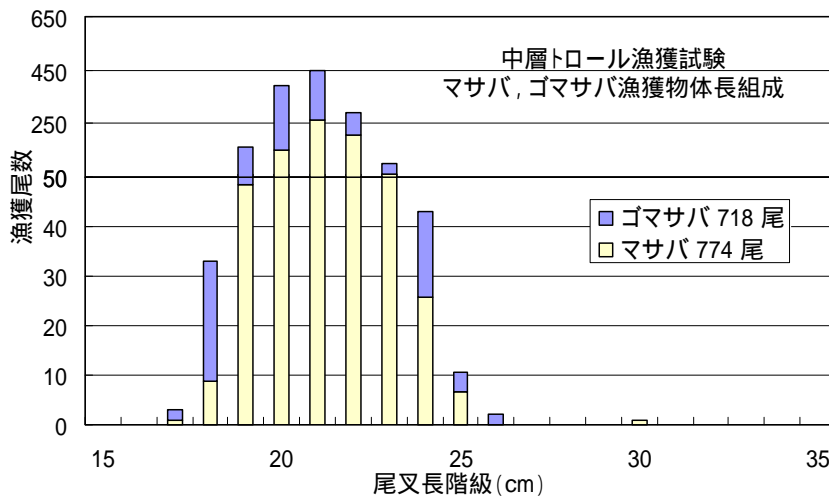


図3. 東北水研(北鳳丸)の中層トロール漁獲調査で漁獲されたさば類の尾叉長組成。

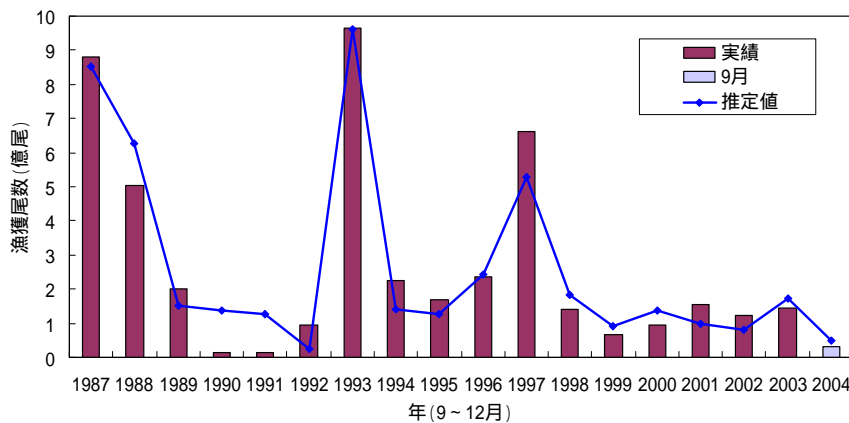


図4. 東北海区における9～12月のまき網によるさば類漁獲尾数の実績と調査船漁獲調査結果に基づく推定値。2004年は0.5億尾と推定された。